

国語科（文学的な文章）における授業づくりのポイント

杉本 竜也

1 国語科における主眼について

国語科では、授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは内容【思考力、判断力、表現力等】です。二つは、その内容を捉えるための見方や思考方法、活動【言語活動】を書きます。

○ 主眼の作り方の例

主眼1 ～において、～を（捉える、想像する、表現する）ことができるようにする。

主眼2 ～に着目し、～する活動を通して、～について説明することができるようにする。

【第2学年 「スイミーの授業」の主眼1の例】

1 学習指導要領解説（69ページ 一部抜粋）内容の焦点化

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

物語は通常複数の場面によって構成され、展開に即して時間や場所、周囲の風景、登場人物などの様子の変化しながら描かれている。場面の様子に着目するとは、登場人物の行動を具体的に想像する上で、物語の中のどの場面のどのような様子と結び付けて読むかを明らかにすることである。

登場人物の行動を具体的に想像するとは、着目した場面の様子などの叙述を基に、主人公などの登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりすることである。

身に付けさせる内容は、場面の様子に着目して、登場人物（スイミー）の行動を具体的に想像すること。

【場面】

スイミーが赤い魚たちと協力して大きな魚を追い出す場面。

【スイミーの行動】

スイミーは教えた。けっしてはなればなれにならないこと。

みんなもちばをまもること。

スイミーは言った。「ぼくが、目になろう。」

これらの言動について具体的に想像し、叙述を根拠に行動の理由を想像することができるようにする。

2 2年生の文学的な文章の系統（光村図書2年より）内容の具体化

【2年生の文学的な文章の系統】

2年（1学期）	2年（1学期）
ふきのとう	スイミー
登場人物が多く、誰が何をしたのか、言ったのかを文章から捉えるのに適している。	登場人物は少なく、主人公が何をしたのか、言ったのかを具体的に捉えるのに適している。
構造と内容の把握	精査・解釈

2年（2学期）	2年（2学期）
お手紙	わたしはおねえさん
二人の登場人物のやりとりで構成されており、どちらがしたのか、言ったのかを具体的に捉えるのに適している。	同年齢の主人公と自分の経験を重ねて考えることができ、登場人物の行動の理由を捉えることに適している。
精査・解釈	考えの形成

2年（3学期）
スーホの白い馬
登場人物の気持ちに寄り添って感想を考えることに適している。様々な視点で感想をもち、多様な考えを広げることができる。
共有

1年間の系統を見たときに、「スイミー」の単元では、精査・解釈が指導の重点となっていることが分かる。このようにして、2年生の文学的な文章の系統から1年間の中で本単元の重点となっているところを分析し内容を具体化していく。

3 教科書の前時と本時の内容のつながり

前時の挿絵

【前時の内容】

スイミーが赤い魚を見つけて、大きな魚を追い出す方法を考える場面の「考えた」を想像。

本時の挿絵

【本時の内容】

スイミーが赤い魚と協力して大きな魚を追い出す場面の「追い出した」につながる行動を想像。

【本時の主眼1】

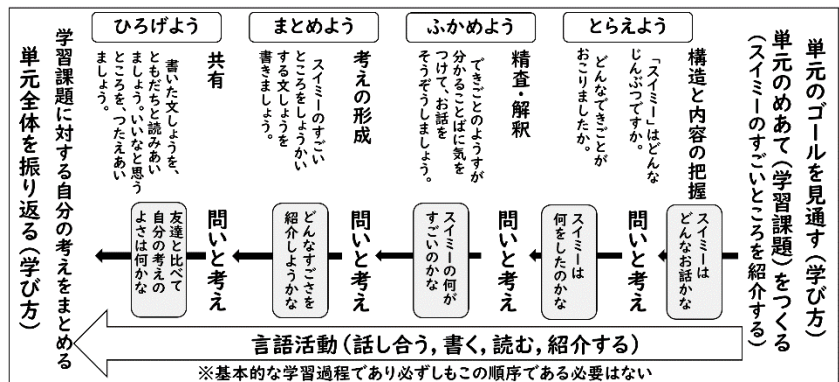
スイミーが赤い魚と協力して大きな魚のふりができるようにするために、近くや遠くから赤い魚たちにお手本を見せたり指示したりをくり返して、追い出そうとしたスイミーの行動を想像することができるようにする。

2 国語科における単元指導計画について

国語科では、単元を見通して「言葉による見方・考え方」を働かせながら、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深めていくことが大切です。

国語科の単元指導計画では、まず学習する内容を知り、そのために必要な言語活動を行い、活動を通して学習したことを振り返ることで理解を深めます。この過程を踏むことで、前時までに学習した場面や着目する言葉を基に国語を正確に理解し、適切に表現することができます。

国語科においては、単元全体として設定した単元全体の問い（学習課題）を解決するために一単位時間の学習を行っていきます。大きな問いを解決するために一単位時間に小さな問いを解決していくという目的意識を常にもたせることが大切です。



3 国語科における一単位時間の学習過程について

国語科では、子供自らが問題意識をもち、既習の学び方を基に見通しを立てて、叙述を根拠に、自分の考えをつくり、他者との話し合いの中で新たな考えを見いだしたり、自分の考えを付加、修正、強化したりしていく問題解決的な学習過程を大切にします。

○ 一単位時間の学習過程（波線は、ICT 活用）※ 低学年の物語の学習において

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	<p>○ 既習の場面と本時の場面を比べ、本時学習のめあてについて話し合う。</p> <p>既習の場面 ← 比較 → 本時の場面</p> <p>めあて □□についてしょうかいしよう。</p>	<p>○ 既習と本時の場面の相違点に気付かせるために、<u>既習の場面を学習者用端末に提示する。</u></p>
展開	<p>○ 既習の場面の解決方法を振り返り、本時の場面の解決方法の見通しをもつ。</p> <p>【見通しは以下の2つを書きます。】 □見方（着目する所） □考え方（思考方法）</p> <p>○ 見通しを基に、本時学習のめあてに対する自分の考えをつくる。</p> <p>教材文の叙述 ← 具体物操作 → 考えをつくる</p> <p>○ 自他の考えを比較し、考えを深める。</p> <p>自分の考え ← 比較（相違点・共通点） → 他者の考え</p> <p>新たな考えの構築、考えの付加、修正、強化</p>	<p>○ 既習の見方・考え方を振り返らせるために、<u>既習の板書写真を保存し、いつでも見ることができる環境を整える。</u></p> <p>○ 自分の考えをつくらせるために、教材文を読みながら具体物操作をすることができる場を設定する。</p> <p>○ 自他の考えを比較し、新たな考えの再構成、考えの付加、修正、強化させるために、自分の考えを友達に説明する場を設定する。</p>
終末	<p>○ 学習内容を振り返り、本時学習のまとめをする。</p> <p>まとめ □□は…である（…するとよい）。</p> <p>○ 学び方を振り返り、次時への見通しをもつ。</p> <p>本時の見通し ← 関係付け → 本時のまとめ</p>	<p>○ 本時学習で見いだした考えをまとめさせるために、キーワードを板書上に整理する。</p> <p>○ 本時学習の学び方を積み上げさせるために、<u>見通しとまとめの関係性を振り返る場を設定する。</u></p>

4 国語科における ICT の活用について ※ ICT の活用は手立てであり、目的にならないようにする。

国語科では、ICT の活用について大きく二つの用い方があります。

- ・ 既習内容の振り返りや自他の考えの共有といった毎時間の用い方
- ・ 学習課題に対しての自分の考えをまとめ、蓄積していく用い方

○ 国語科における ICT を用いる学習過程

